

東京 IPO 特別コラム

2016年11月1日 Vol.55

一緒に考えよう！！中小型 IPO 銘柄投資の醍醐味

各地で繰り広げられた熱狂的なハロウィーンのイベントも終わり今日から 11 月となります。株式相場は欧州や中国など海外経済の先行き不透明感や引き続き混沌とした米大統領選や米国の利上げ動向など様々なリスクファクターを抱えながらも高い信頼性を背景にした安倍政権の延長を好感する格好で徐々に上向く傾向が見られ、日経平均 17500 円を目前とする水準に到達しています。為替相場が円安傾向に転じていることも株高を支えているほか、日銀の TOPIX 型 ETF 購入や自社株買いの積極化などで需給が良くなっていることもここに来ての株高につながっていると推察されます。

本日は東京 IPO 主催のセミナーにて筆者が講師を務めさせていただきますが、多くのご来場の皆さんを前に、本コラムの発行が 50 号を超えたことを記念して中小型 IPO 銘柄投資の醍醐味についてお話させて頂く予定です。残念ながら過去を振り返りますと日本郵政グループ 3 社やリクルート、LINE も含めて大型銘柄の上場後の値動きは冴えない一方で中小型銘柄は AI、ビッグデータ、フィンテック、IoT、ロボット、セキュリティ、創薬、農業などをテーマした銘柄を中心に高い投資成果を収めています。2015 年 11 月以降の IPO 銘柄を吟味すると AI 関連のロゼッタ (6182) が公開価格 695 円から時価まで 12 倍以上となっているほか、鎌倉新書 (6184) も 3.9 倍、インベスターズクラウド (1435) 4.2 倍、エボラブルアジア (6191) 2.6 倍、農業総研 (3541) 4.8 倍、ストライク (6196) 3.8 倍、直近でもシルバーエッグ (3961) 3.8 倍、チェンジ (3962) 4.3 倍となっています。これらは上場初値や上場後の安値で投資したとしても高い成果が得られています。ロゼッタや鎌倉新書、エボラブルアジアは株価の上昇後に 2~4 分割を実施して流動性を高め投資家の期待に応えています。一方で上場時には高い評価が得られず、初値が低水準に留まった包装材事業を展開する中本パックス (7811) が公開価格から 1.8 倍となっているほか、廃棄物処理に関連したリファインバース (6531) が公開価格の 3.4 倍にまで上昇するなど業態が地味な銘柄の評価も高まっています。バリュウ価値を評価して投資して株価が下落している場合は忍耐強く待ち続ける姿勢も時に必要となる事例ではないかと思えます。

IPO 銘柄は上場初値、上場後の高値と安値、特に高値をつけた後の調整局面での対応や下落傾向を辿った場合はどこでボトムをつけるのかなどを考えていく必要があります。その際に実際に経営者の話を聞いてみたり、発表される決算内容や様々なリリース内容等を吟味しながら中長期の成長を展望し今後の株価を読み説くことが求められます。本コラムでは好需給を背景にした中小型銘柄の堅調な値動きを横目に株価が低迷している銘柄にも目を向けながら中小型銘柄の株価変動の特徴を今後とも一緒に考えて参りたいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)